日野市立教育センター所報

教育センターだより

第３８号　平成２８年３月１０日発行

２月２２日･午後
活動報告・調査研究事業発表会

日野市立教育センター

〒１９１－００４２
日野市程久保５５０

TEL　０４２－５９２－０５０５
FAX　０４２－５９２－１１４８

開館時間　午前８時３０分
～午後５時１５分

ひのっ子の未来を見据えて

日野市教育委員会　学校課
指導主事　岡元　大輔

日野市教育委員会では、今年から立ち上げた「学ぶ力向上推進委員会」において、これからの社会を踏まえ、どのような子供たちを育成していくか、「第２次日野市学校教育基本構想の基本方針１における『２１世紀を切りひらく力』はどのような力か。」「『２１世紀を切りひらく力』を身に付けるためにはどのような授業を目指すか。」を、全小・中学校の代表者と専門家で熟議をしてきました。

代表者は、グループ協議を行う中で「『２１世紀を切りひらく力』はどのような力か」についての考えを深めました。また、講師からは、今、教育を進める上で求められている資質・能力や、世界における２１世紀の教育の動向、教育をデザインする思考ツールについて、様々な視点からご指導をいただきました。更に、日野第二中学校区（日野第二中学校・豊田小学校・日野第五小学校）の三校合同の研究も始まりました。

平成２７年８月２６日に、文部科学省初等中等教育局教育課程企画特別部会は、論点整理を発表し、これからの子供達に求められる資質・能力や学校教育が目指す方向を示しました。

今後の教育について「これからの子供たちには、社会の加速度的な変化の中でも、社会的・職業的に自立した人間として、伝統や文化に立脚し、高い志と意欲を持って、蓄積された知識を礎としながら、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められる。学校の場においては、子供たち一人一人の可能性を伸ばし、新しい時代に求められる資質・能力を確実に育成していくことや、そのために求められる学校の在り方を不断に探究する文化を形成していくことが、より一層重要になる。」とあります。

また、これから育成すべき資質・能力について、以下のような３つの柱を示しました。

ⅰ）「何を知っているか、何ができるか(個別の知識・技能)」

ⅱ）「知っていること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力等)」

ⅲ）「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)」

これまでの教育から、より児童・生徒が主体的に問いを見つけ、協働的に学ぶ方向に進めていこうとする姿勢が伺えます。

これらの３つの柱については、第２次日野市学校教育基本構想における「２１世紀を切りひらく力」の８つの力に通じるものがあり、「学ぶ力向上推進委員会」でも話題となりました。

そして、平成２８年２月１８日に報告会として、委員の１年間の協議の成果を発表しました。その中の「今後の展望」では、「特色のある教育を、総合的な学習の時間や特活だけでなく、国語や数学のような毎日の教科学習でも充実させていく必要があります。児童が継続的に学ぶことができる活動をするために、教科指導にこそ一層の工夫が必要になるのではないかと考えます。」との発表がありました。今後の「学ぶ力向上推進委員会」は、日常的な学びの充実をめざし、更に熟議を進め、「２１世紀を切りひらく力」を育成するための授業創造に取り組んでまいります。

日野市立教育センターでは、若手教員の育成や、理科・英語の教育研究の推進、郷土教育の推進等、過去を見直す取組、未来に向けた取組を多く行ってくださっております。今後も、これらセンターの事業を通し、ひのっ子の成長に寄与されることを念願し、挨拶といたします。

平成 27 年度２学期事業報告

適応指導（わかば）教室　〔以下「わかば教室」〕

わかば教室の２学期以後の事業（行事）について報告します。

わかば教室の通室生は６月以降増え続け、登録人数は小学生２０名・中学生３５名を合わせて５５名を超えました。その中で、常時通室できる児童・生徒は小学生１１名程度、中学生１７名程度で合わせて２８名程度です。通室する児童・生徒は毎日入れ替わっており、多い日は小学生だけで８名、中学生だけで１６名という状況もあります。わかば教室では登録している児童・生徒の通室する機会を増やし、心と身体のエネルギーを高め、在籍校に復帰していくために、写真のような行事（音楽発表会・調理実習）も実施しました。その他にも、誕生日会や社会科見学・新年を祝う会なども実施しました。

平成 27 年度　日野市立教育センター　　平成 28 年 2 月 22 日

活動報告・調査研究発表会

日野市立教育センター講堂

＜研究発表会の様子＞

今年度より日野市立教育センターの研究発表会の形式を変えました。前半が教育センターの四つの活動報告と後半が理科教育推進研究及び郷土教育推進研究の発表にしました。その大きな目的は、本教育センターが日常的に活動している内容を多くの方々に理解してもらうことと教育センターが中心となって、教育研究をしている内容を伝え、日々の教育活動に役立てていただきたいことが主な目的です。前半の４つの活動報告（①教職員研修②適応指導教室③登校支援④教育資料・広報）については今回初めての取り組みですので、ご意見をいただければ幸いです。

各事業での詳しい活動内容については、本センターだよりの 3 ページ以降をご覧ください。そして、毎年、本センターの事業をまとめた教育センター紀要を発行し、さらに詳しく、報告しています。また、教育センター紀要は本センターのホームページに掲載し公表しております。

平成 27 年度　日野市立教育センター　　平成 28 年 2 月 24 日

第 2 回　運営審議会

教育センター　会議室

＜運営審議会の様子＞

本教育センターには、その運営について必要な事項を審議するために運営審議会（学識経験者など８人で構成）が設けられています。

毎年度、２回実施されます。この度、本年度第２回目の審議会が行われ、今年度における教育センターの活動について、４部・７係の事業の評価と課題、展望について、審議がなされました。

来年度に向けては本審議会の審議結果・提言を受け、さらに、教育委員会・市内幼稚園・小学校・中学校各校等の意見及び調整を経て、新しくスタートすることになります。

Ⅰ　調査研究部

１　理科教育推進の研究（理科教育推進研究委員会）

教科等教育係

理科授業・学習への支援

理科教育推進研究委員会の重要な使命に理科支援センターとしての役割があります。この事業を大きく二分すると一つにＣＳＴ及び理科ワークショップ講師と進める理科ワークショップそしてもう一つに教育センターの理科教育推進研究担当が直接担う主な事業としての理科実験室と研修会の実施、情報の提供・発信、理科授業・学習への支援、地域の自然の掘り起こしさらにＩＣＴ開発教材等の普及、理科ネットワークの活用があります。その他に文部科学省の理科観察実験支援事業の理科観察実験アシスタント関連事業等があります。

今回はこれまで取り上げる機会の少なかった理科授業、学習への支援を中心に御紹介します。日野市立小・中学校に通う子どもに日野の自然である植物・動物とともに丘陵・台地・多摩川・浅川などがどのように出来てきたかを学ばせることは重要なことです。日野の地を学ぶ過程で日野の豊かな自然､人や物に対する知識を広めたり深めたりしながら郷土愛を育むことができます。そして日野市にとどまらず東京、関東地方、日本を学び知識を広めることで愛する郷土とその自然への理解を深め、人が自然から如何に多くの恩恵を受けているか考えさせ、自然の大切さ、自然を守ることの必要性、過去から現在に連続する自然の営みを多くの視点から理解させることにつながります。身近な地域の自然を掘り起こし教材化することは日野市で育つ子どもに生きて身につく知識として高い価値があります。その視点から情報の提供・発信を続けてきた教材として「海鳴りの丘」があります。「海鳴りの丘」とは旧名南平田中と呼ばれる地域の丘陵公園の西尾根につながり、田中子ども広場の南側の崖に地層が露頭となった場所を指します。多摩丘陵北側の浅川によって刻まれた緩斜面が宅地開発により崖地になった場所です。ここを観察し前期更新世がはじまる１７０万年前後の関東ローム層に覆われた沖積層の地層を目で見て、手で触り、さらに砂粒を顕微鏡で覗き色、大きさ、形から多くを学ぶ生きた教材として子どもの身につきます。

上記の写真は１２月４日(金)に平山小学校の６年生が５、６校時に行なった「地層学習」の様子です。講師は教育センター調査研究部理科教育推進研究担当の島崎忠志所員(中央の写真)と山形正夫所員が務めあらかじめ教育センターから携帯用の双眼実体顕微鏡と幾種類かの比較用の砂層の砂粒を研ぎ出ししたプレパラートを用意しました。教育センターの教科等教育係では「ひのっ子が主体となる理科教育」を目指す理科支援センターとして理科授業づくり段階から学校・教員支援、理科実験室の教材、教具の貸出し(双眼実体顕微鏡等)や教材の収集、作成、開発を進めています。今回の「地層授業」の最も大きい成果は子どもが普段から当たり前に見ていた緑の丘陵と露出した崖から過去や未来につながる多くのことを学べることを知ったことです。

２　郷土教育推進研究（郷土教育推進研究委員会）

ふるさと教育係

１．郷土教育の普及・啓発と研究発表会

郷土教育推進研究委員会では、第２次日野市学校基本構想に基づき「ふるさと日野」に誇りと愛着をもった「ひのっ子」を育成するため、成果の普及・啓発に努めてまいりました。その一環として、１年間の研究の成果を今年は２月２２日に３つの事例を発表しました。

２、研究発表会報告事例（小学校、郷土資料館）

（１）水の郷　日野～黒川清流公園を中心に（日野第六小学校　５年生）

本市は、１９９６年に国土交通省より「水の郷百選」に選ばれています。多摩川や浅川、台地から湧き出す湧水と、これが本市の大きな特色となっています。子供たちが抱いた水にかかわる課題を題材に、学習を展開し豊かな自然と調和した本市のことを理解させました。特にフィールドワークやゲストティーチャーを活用し、身近な題材として学習を進めました。

子供たちにはこの学習のまとめとして本市のキャッチコピーを考えたりイラストに表すことで、改めて本市の豊かな環境について学ぶことができました。

（２）「自然災害とともに生きる」（日野第八小学校　５年生）

我が国は、地震や噴火、大雨による河川の氾濫等様々な自然災害が起こりやすいことを理解させました。これに対し、国や自治体は防災のため公共事業に計画的に取り組んでいます。この取り組みについて、子供たちにとって最も身近である三沢自治会自主防災会の取材を通して、地域の防災への理解を深めました。

地域では、暮らしを守り備えるために、地域住民で、できることが多くあります。地域の助け合いにより災害は最小限にすることができ、子供たちにもできる取り組みがあることを考えさせるために本単元は考えられました。

（３）「ほどくぼ小僧　勝五郎生まれ変わり物語」の学校教育における活用について

程久保村の藤蔵と中野村の勝五郎の生まれ変わり、物語の主人公勝五郎が生まれて２００年目に当たる平成２７年（２０１５年）郷土資料館が中心となって資料集がまとめられ、新選組のふるさと歴史館で、展示会が行われました。

地元に伝わる貴重な生まれ変わり伝説を長く伝承してもらうには、多くの子供たちに知ってもらうことが大切です。

平成２０年からは「夏休み子ども講座」を開催し、平成２１年からは墓所の見学や、紙芝居や絵本による物語の紹介をしています。

３　ひのっ子教育２１開発委員会

基礎調査研究係

１．研究主題

新学習指導要領では、児童・生徒が主体的に学び、生きる力の育成、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランス、言語活動の充実などが求められています。

また、第２次日野市学校基本構想において目指している「２１世紀を切り開く力」の育成を具現化していくためには、英語教育においても「人とのつながりを大切にし、豊かな表現力と伝え合う力、コミュニケーションの力」を鍛えることや、小・中・高等学校による連携教育を一層充実させていく必要があります。この主旨をうけ今年度より「外国語活動・外国語（英語）科における　魅力ある授業づくりプロジェクト」に基づく、授業研究を進めてきました。

２年間かけて、研究を進める上で今年度のテーマを「小学校外国語活動と中学校外国語・高等学校外国語の円滑な接続」としました。その中で、特にＡＬＴの活用法について研究を進めてきました。

今年度と来年度の２年間かけて、東京家政大学人文学部英語コミュニケーション学科教授　太田　洋先生にご指導を受けています。

２．研究発表会

２月９日（火）にひのっ子教育２１開発委員会研究発表会　実施。

【研究のまとめ】

１．小学校、中学校の円滑な接続

【成果】小中連携の視点を明確にした検証授業を実践した。

小学校で「英語を聞く、反応する」の活動を、中学校でも引き継ぎ、お互いにつながりを意識した授業を検証授業で実践しました。小学校、中学校のそれぞれのゴールはつながっていて、「あいまいさに耐える力」「推測する力」を育てる活動を考えることができました。お互いの授業を見るときの３つの視点が明確になりました。

【課題】市内全校の小中連携の充実につなげ、小中高連携の継続研究を行うこと。

今年度は、小・中連携の視点に重点をおき、研究を進めてきました。来年度は、市内全小学校の連携の充実につなげることが必要です。

２．ALT の活用

【成果】ALT の効果的な活用を整理し、さまざまな活用例を提案できた。

言語習得に多くのインプットを与えてくれる ALT が、どのような効果的な活用ができるかを検証し、整理することができました。特に、中学校検証授業では、初めての試みとして、「リーディング授業での活用」に焦点を当て、ALT と４技能の統合的な活動をしながら、「自己表現」をする授業を提案しました。

【課題】小中のつながりを明確にした ALT の活用を、小・中学校全体に広める。

今年度ひのっ子教育開発委員会で提案した活用事例を、日野市内の小学校、中学校全体に広めていきたい。来年度は、活用事例の研究、検証をさらに深めることが課題です。

Ⅱ　研修部

教職員研修係

若手教員の育成に取り組む教育センター研修部の活動

今年度は、研修部専任３名と他の職務を兼任する所員２名の計５名で分担し、若手教員の授業観察及び指導を行いました。

研　修　名	人数 (小学校) (中学校)	担当する指導内容
若手教員育成研修（１年次）	46 名 (22 名) (24 名)	年３回の授業観察及び指導の実施
若手教員育成研修（２年次）	25 名 (13 名) (12 名)	年１回の授業観察及び指導の実施 ・ 夏季研修
若手教員育成研修（３年次）	23 名 (17 名) (6 名)	年１回の授業観察及び指導の実施 ・ 夏季研修

１　若手教員育成研修

（１）１年次若手教員

年３回、担当する若手教員のいる学校を所員が訪問し、授業観察及び指導を行いました。

主な指導上の観点としては、

①児童生徒が活き活きと活動できる授業展開となっているか

②説明・発問は明瞭で分かりやすいか

③板書はＩＣＴの活用を含め計画的で、丁寧であるか

④教材研究は深められているか

⑤生徒とのコミュニケーションは取れているか

⑥話し合い活動のための事前の準備は適切か

⑦単元のねらいとその評価方法は適切か

⑧児童生徒に変容はみられたか　　・・・など

授業後、授業者の自評を踏まえ授業点検表などを使用し、観点ごとに授業を振り返り、担当所員は、よかった点や課題を示し、次の授業に向け，改善策を話し合いながら若手教員の指導にあたりました。最初の頃、若手教員は児童生徒の顔を見て説明をすることも容易ではなく、授業展開も先生からの一方通行の傾向があり、単調な授業になりがちでした。しかし、３回目の授業観察の頃には、若手教員にも落ち着きがみられるようになり、基本的な説明・発問・板書のスキルはもちろん、児童・生徒の表情や発言から理解の度合いを把握し、授業を進めていくといったゆとりも見られるようになりました。

引き続き、話術を磨くこと、教材研究を続けていくこと、そして基本にある児童生徒理解を深め、人権感覚を磨くことなど、日々の地道な努力が大切であることを話しました。

（２）２年次及び３年次若手教員

年１回、２年次及び３年次若手教員のいる学校を所員が訪問し、授業観察及び指導を行いました。２年次教員に対しては、１年次における研修の成果と課題を踏まえ、授業のねらいが明確で展開にも工夫のある授業実践ができるよう、また、課題に対する改善策も考えていけるよう具体的な指導を行いました。教科指導における生活指導のありかたにも触れ、より実践的な指導力をつけるための助言も行いました。

３年次教員には、課題解決的、より実践的な授業を行えるよう、そして、児童・生徒の疑問や要求にも即座に対応できる力をつけていくための助言をしました。また、外部との連携や学校の組織的な動きにも触れながら指導にあたってきました。

Ⅲ　相談部

１　学校生活相談

学校生活相談係（わかば教室）

学校生活相談適応指導教室「わかば教室」の活動

適応指導教室(「わかば教室」)は、不登校(長期欠席傾向を含む)や登校しぶり等の状況にある児童・生徒の学校生活上の環境(特に不適応に関わる問題）や、通室する児童・生徒に対しての相談、学習指導・支援、行事等の活動を行なってきました。

「わかば教室」の主な活動〔４つの柱＊〕は次の通りです。

（１）教育相談活動〔＊１〕

カウンセラーが、通室する個々の児童・生徒と定期的に面接を行いました。また、保護者とも随時相談してきました。継続したカウンセリングで多くの児童・生徒が精神的に安定し、目標を持った生活や復帰・進級・高校受験に向けての努力をするようになり、その重要性が益々増しています。また、保護者との密接な連絡・相談がよい結果を生んでいます。

（２）教育活動

①　個別支援の記録の作成〔＊２〕

通室生の日々の通室、指導･支援の記録をつけて、次の支援の方法や指導員の共通理解に役立てています。毎週水曜日に通室生が帰った後ミーティングを行っています。

②　豊かな体験活動・スポーツ(わかばタイム・行事)〔＊３〕

「わかば教室」では、年間を通して「わかばタイム」や行事を通して、幅広い体験活動を行っています。「わかばタイム」の時間には、栽培活動や音楽・スポーツなどを行っています。

また、二学期の行事は社会科見学・お茶会・収穫祭等を行いました。体験活動には、いつも参加人数が多く、笑顔・活気・感動がありました。体験活動への参加から学習活動への参加へ、集団の輪の中へと適応の幅・質も高まっています。

③　個に応じた教科指導〔＊４〕

学年や通室生の思い、学習進度等を考慮して、基本の時間割を基に、個別または小集団による基礎的な学習の指導・支援を行いました。また、自分のペースで学習ができる「ひのっ子学習システム」によるｅラーニング(パソコンでの個別学習)を実施しました。

④　丁寧な生活指導・進路指導

指導員は本教室の方針に沿って、通室生の状況把握と共通理解のもと、よい人間関係や健康な身体づくり、望ましい生活習慣の確立等を目指して丁寧に指導しました。また、安全指導を徹底し事故防止にも努めました。特に中学３年生には、進路情報の提供を含め、作文や面接等を丁寧に指導しました。

（３）学校・家庭・地域・関係機関との連携・協力

「わかば教室」での教育相談・教育活動・生活指導・進路指導・その他の活動は、学校・家庭・地域・関係機関との連携・協力に支えられています。特に、在籍校との情報交換の内容は「わかば教室」での環境改善に役立てています。

授業や活動では地域の方や学生ボランティア等の協力が、児童・生徒の情況改善に効果をあげています。また、登校支援コーディネーター、一般教育相談(エール)とも連携しています。

今年度も年度途中からの通室者が増え、２月現在５３名が通室しています。また、２名が年度途中に学校へ復帰できました。しかしながら、通室生の多くは乗り越えなければならない課題を抱えております。今後も児童・生徒理解に努め、支援するとともに、一人でも多く学校に戻れるように学校や家庭、関係機関との連携・協力をしていきたいと思います。

２　「e-ラーニング」を活用した学習支援

登校支援員

今年度は、２月末現在３０名の児童・生徒が e-ラーニング「ひのっ子学習システム」を活用しました。また、わかば教室に通室している児童・生徒は、年間を通し週二日（固定学習日：月曜日・水曜日）e-ラーニングを活用して学習をしています。

わかば教室では、e-ラーニング担当者が一人一人の能力に応じた個別学習課題取り組みへの支援をしています。つまずきのある学習やあまり学習してこなかった内容を基礎から学んだり、各学年の教科の内容は進度に応じて選んで学習できるので学力への不安が軽減されています。さらに、学習したいという意欲の芽生えは、学校復帰へのきっかけや進学への希望の一因となっています。

※わかば教室見学者は、固定学習日（月曜日・水曜日）に e-ラーニングで体験学習をすることが可能です。事前にわかば教室を通して、時間等を確認してください。

さらに、さまざまな理由からわかば教室にも通室できず、長期間の欠席状況にある、またはそのような傾向にある児童・生徒に対して居場所（わかば教室 e-ラーニング学習室）で学習できる機会を設定し、児童・生徒の学習支援や学校復帰への援助を図っています。学習時間は、水曜日（わかば教室下校時刻後☆午後２時～４時）、活動場所は、わかば教室 e-ラーニング学習室です。

※事前に調整が必要ですので、学校を通してわかば教室登校支援員に確認してください。

３　不登校改善へ向けての取組み

登校支援コーディネーター

（１）適応状況調査の活用

不登校問題の改善をめざす「日野サンライズプロジェクト」の提言を受けて、市内各小中学校では適応状況調査を実施しています。適応状況調査は、校内委員会での不登校の状況や学校の取組み等の検討を踏まえて各学校で作成し、教育委員会及び教育センター登校支援コーディネーターに報告されます。

登校支援コーディネーターは、適応状況調査の集計・分析を基に、毎月開催される定例の生活指導主任研修会をはじめ、関係機関との連携の機会を通じて、不登校改善に向けての情報提供に努めています。また、日野市発達･教育支援センター（エール）の教育相談担当カウンセラーやＳＳＷへの情報提供を通して、関係機関同士の連携・協力ができるようにと考えてきました。

今後は、登校支援コーディネーターとしての助言活動をさらに進めて行きたいと考えています。

（２）学校訪問とケース会議への参加

市内２５校全校の学校訪問を前期･後期にわけ、わかば教室担当者と合同で行ってきました。また、今年度より配置されたＳＳＷとともに各学校を訪問して、適応状況調査の結果を活かしながら、ＳＳＷの活用に向けて学校のニーズの把握に努めるとともに、不登校等への取り組みの一つとして学校がケース会議を開催する際、登校支援コーディネーターもケース会議のメンバーとして、不登校問題の改善に向けての協議に継続して参加してきました。

（３）まとめ

不登校は学年が上がるにしたがって長期化、重度化していく傾向にあります。また、不登校になる理由も複雑で解決の糸口を見出すのは容易ではありません。しかし、各学校は様々な対応策をとりながら不登校問題の解決に向けて努力しています。登校支援コーディネーターとして日野サンライズプロジェクトの提言に基づいて関係機関との連携を図り学校への支援に努めていきます。

教育資料・広報係

教育センター・Ｗｅｂサイトの紹介

１　教育情報センターとしての機能の充実

本教育センターでは、学校や教員による児童・生徒の指導や学校運営に対して必要な情報を随時提供できる“教育情報センター”としての機能の充実を進めています。

教育センターＷｅｂサイトはそのうちの１つとして力を入れています。このサイトでは、主にセンターの日常的な活動の報告や教育相談、学校生活相談の活動の紹介を行っています。

研究紀要等各種資料のメニュー

- ひのっ子教育 21 開発委員会報告
- 教育センターの活動報告
  - 教育センター紀要
  - 教育センター便り
- 郷土教育指導資料
  - 第１集～１０集
- 日野市教育委員会研究奨励校
  研究報告書の概要

２　日野市公立学校の研究成果の公開

本サイトの特色としては、日野市内の公立小・中学校が進める研修活動の成果を広く紹介していることがあげられます。特にＷｅｂサイトでは日野市教育委員会研究奨励校（本年度は５校）の発表会の日程や研究紀要の集録の概要と共に、当日発表されたプレゼンテーションのデータファイルをＰＤＦの形で公開しています。

また、年度末には全ての小中学校がそれぞれの学校で取り組んだ１年間の研究成果としての研究紀要・集録図書をファイルとして資料室に保管し、閲覧できるようにしてあります。

それぞれ、データをダウンロードできるようにしてあり、日野市内外からの教員、研究機関の教育の実践的な研究の資料として活用されています。

今後とも、本センターのＷｅｂサイトの充実をしていきます。

新　し　く　購　入　し　た　本　の　紹　介

○本センター内教育図書資料室でご覧いただけます。また、市内教職員につきましては貸出しいたします。

＜後期購入本＞

購入希望図書	編・著者	出版社
自ら向上する子どもを育てる学級作り	赤坂　信二	明治図書出版
特別支援学校　学習指導要領	文部科学省	海文堂出版
特別支援学校　学習指導要領　解説	文部科学省	教育出版
教師が２０代で身に付けたい２４のこと	堀　　裕嗣	明治図書
教師が３０代で身に付けたい２４のこと	堀　　裕嗣	明治図書
教師が４０代で身に付けたい２４のこと	堀　　裕嗣	明治図書
不登校・引きこもりが終わるとき	丸山　康彦	（株）ライフサポート社
不登校は９９％解決する	森田　直樹	リーブル出版